

SCIENCE SUMMIT 2025

OFFICIALLY ADOPTED PROGRAM

日時 **2025**
9.23 火・祝
START **9:00** [予定] → **11:30**

会場 慶應義塾大学病院 北里講堂(東京都・信濃町)
[ZOOM 配信有] zoom

言語 日本語
[ZOOM 配信のみ同時通訳(英語)有]

定員 現地[先着]100名
[ZOOM 配信]先着500名

現地の注意 現地会場は2階となり、エレベーター・エスカレーターがなく階段のみの会場となります。バリアフリーな会場でなく誠に申し訳ございませんが、ご理解の程何卒よろしくお願い申し上げます。

登壇者(敬称略・登壇順)

足立 剛也

慶應義塾大学病院アレルギーセンター・副センター長
慶應義塾大学医学部皮膚科学教室・専任講師
NPO 法人ケイロン・イニシアチブ・理事長
国際希少疾患研究コンソーシアム (IRDIRC)・学際科学委員会委員

勝井 恵子

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
研究開発戦略推進部 社会共創推進課 課長代理

岩屋 孝彦

一般社団法人 欧州製薬団体連合会(EFPIA Japan)会長
サノフィ株式会社 代表取締役社長

西村 由希子

NPO 法人 ASrid 理事長

柴崎 浩之

日本筋ジストロフィー協会・ベッカー型筋ジストロフィー分科会・副会長
国立精神・神経医療研究センター・神経研究所・客員研究員
日本希少疾患コンソーシアム・患者会幹事代表

南宮 湖

慶應義塾大学医学部感染症学教室 教授
慶應義塾大学病院臨床感染症センター長

坂元 晴香

日本医療政策機構シニアマネージャー

患者・市民参画(PPIE)の推進シンポジウム

(第30回KACカンファレンス)

グローバルヘルスの課題に取り組むための

医療現場では、さまざまな難病(希少疾患)や、アレルギーなどの一般的疾患といった異なる領域において、患者と医療従事者がそれぞれの立場から課題に取り組んでいます。こうした多様な立場や経験の違いは、時に想いの交差を難しくする一方で、相互理解や協働の可能性も秘めています。

本シンポジウムは、こうした課題への新たな視点を提示する取り組みとして、2025年9月に開催される第80回国連総会(UNGA80)期間中の「サイエンス・サミット2025」に公式採択されたプログラムです。

患者・家族・医療者・研究者など多様な声が出会う場として、PPIE(患者・市民参画)の未来をともに描きます。分断ではなく協働へ。疾患の枠を越えて“共に創る医療”に向けた実践と提言を、現地とオンラインを通じて広く共有します。



Information

主 催: 慶應義塾大学病院アレルギーセンター/
NPO 法人ケイロン・イニシアチブ
後 援: 日本医療研究開発機構/日本医療政策機構/
日本アレルギー学会

先行優先申し込みのため、早めのご予約をお勧めします!

定員に達し次第、受付を締め切ります。参加をご希望の方は、右記QRコードから今すぐお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしています。

お申し込み QR

